

【事例1】小学校自閉症・情緒障害特別支援学級（3年児童）

自分の思いや考えを伝えることに困難が見られる児童が、他者と関わり、安心して学校生活を送ることができるように、適切なコミュニケーション手段を身に付けるための具体的な指導内容を設定するまでの事例です。

ア 実態把握

① 情報収集

「情報収集シート」を使用しました。シートには、前年度までの個別の教育支援計画や個別の指導計画等を参考にしながら、本人の障害の状態や心理検査等の結果、関係機関の利用、本人や保護者の願い、学校生活での配慮事項などについて記入しました（資料1）。できないことだけではなく、うまくできた具体的な場面や得意なことについての情報も記入しました。記入する際は、教師の主観が入り過ぎないように、文末を「～である」等とし、事実について書くようにしました。

|  |   |               |          |
|--|---|---------------|----------|
| 記入者： ○○ ○○   |   | 記入日： ○年 ○月 ○日 |          |
| ふりがな   | ○○ ○○   | 性別            | ○○小 学校   |
| 氏名   | ○○ ○○   | 所属            | 3年 ○組    |
| 家族構成   | ○、○、本人、○  | 生年月日          | ○年 ○月 ○日 |
| 障害の種類・程度や状態等   | 自閉スペクトラム症（○年○月○日）   |               |          |
| 諸検査の結果<br>（心理検査・学力検査等）                                     | WISC-IV 全検査○○<br>言語理解○○ 知覚推理○○ ワーキングメモリー○○ 処理速度○○<br>（ワーキングメモリーが高く、処理速度が低い）   |               |          |
| 地域・関係機関  | 発達相談機関○○を月1回利用している<br>放課後等デイサービスを利用している<br>○○病院に定期受診している<br>○○を服薬している   |               |          |
| 本人のねがい   | 友達と仲良く遊びたい<br>得意なことや頑張っていることをみんなに褒めてもらいたい   |               |          |
| 保護者のねがい  | 生活リズムを整えて元気に過ごしてほしい<br>兄弟仲良く過ごしてほしい<br>落ち着いて宿題に取り組んでほしい   |               |          |
| 興味・関心  | 図書館の本を読むことを好んでいる<br>生き物を飼育することに興味をもっている<br>キャラクター等のパズルを組み立てることを好んでいる<br>新出漢字やローマ字など文字を書くことに関心がある  |               |          |
| 学校生活での配慮事項<br>・学習上<br>・生活上<br>・施設・設備や補助用具                  | 教師や支援員が、児童に次の学習活動の予告をしている<br>朝の時間や帰りの会の時間に、教師と一緒にプリントの整理や学習道具の確認を行っている<br>特別支援学級に、着替えコーナーを用意し、体育の時間の着替えを促している<br>休み時間には、トイレに行くことや水分補給をする際、教師が声を掛けて促している                         |               |          |
| 将来の姿<br>・進路<br>・卒業後  | 本人は、○○になりたいと思っている<br>保護者は、自分のことは自分でできるようになってほしいと願っている   |               |          |
| その他  | 週20時間程度を特別支援学級で学習している   |               |          |
| 1 健康の保持<br>・基本的な生活習慣<br>・病気や体調の状態                          | ・睡眠リズムの定着が不十分で、頭痛を訴えることがある<br>・食事は、好き嫌いが多く小食である<br>・少しのけがを気にして教師に訴えることがある<br>・教師が身なりを整えるように声を掛けると、一人できる   |               |          |
| 2 心理的な安定<br>・情緒の安定<br>・環境や周囲のものに対するかかわり                    | ・好きな活動には、2時間ぐらい集中して取り組む<br>・好きな活動をしている時は、次の活動への切り替えに時間が掛かる<br>・苦手な課題があると、手遊びが多くなる<br>・自分の思った通りにならないといらいらする様子が見られる   |               |          |
| 3 人間関係の形成<br>・他者とのかかわり<br>・集団への参加                          | ・休み時間は、友達と一緒に虫を捕まえに行ったり、図書館に本を借りに行ったりしている<br>・クラスのお楽しみ会では、ものまねをして友達を楽しませた<br>・教師の言葉掛け等で見通しをもたせると、友達と協力してグループ活動ができる<br>・友達と遊ぶ際に、順番や活動のルール、他者の意図等を理解することが苦手なため、友達と適切に関わるできないことがある |               |          |
| 4 環境の把握<br>・感覚や認知の特性<br>・感覚の補助及び代行手段                       | ・学習の手順や作業量を視覚的に示すと、集中して活動に取り組むことができる<br>・大きな音や騒々しい中にいると表情がこわばり、身体が固まる様子が見られる<br>・プリント類や学習道具の整理整頓が苦手である  |               |          |
| 5 身体の動き<br>・日常生活に必要な動作の様子<br>・姿勢や運動・動作の様子                  | ・折り紙や粘土を使った遊びを好んでいる<br>・文字は丁寧に書けるが、時間が掛かる<br>・キャッチボールや縄跳び、ラジオ体操などの動作の大きい運動では、ぎこちない様子が見られる<br>・姿勢を長時間保つことが難しい  |               |          |
| 6 コミュニケーション<br>・言語等でのやりとり<br>・言語の表出や理解<br>・状況に応じたコミュニケーション | ・教師の説明が長いと内容を聞き漏らすことがある<br>・したいことや困ったことをうまく伝えることが難しい  |               |          |

資料1 情報収集（「情報収集シート」より）



対象児童は、興味・関心の高い活動には、長い時間集中して取り組むことができています。一方、他者とのかかわりや状況に応じたコミュニケーションには、課題があることが分かりました。「情報収集シート」を使って、多方面から情報を収集することができました。

② 情報整理

①で収集した情報を「自立活動の区分に即して」「学習上又は生活上の困難の視点で」「将来の姿から」で整理することで、対象児童の課題を焦点化していきました。

②-1 区分に即して整理

「情報整理シート」を使用して、児童ができていない項目にチェック (☑) を付けました (資料2)。  
①で収集した情報と照らし合わせながらチェックを付けると、区分や項目でチェックの数に偏りがあることが分かりました。チェックの数が多い区分や項目については児童の長所と捉え、チェックの数が少ない区分や項目については、自立活動の指導の必要性が高いと考えました。

| 3 人間関係の形成                  |   |   |
|----------------------------|---|---|
| (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事       | <input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児期 (3歳頃まで) に身近な人と親密な関係を築いている<br><input checked="" type="checkbox"/> 他者とのかかわりに関心をもっている<br><input checked="" type="checkbox"/> 他者からの働き掛けを受け止めることができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 他者からの働き掛けに応ずることができる   | ・重度<br>・自閉症<br>・視覚障害  |
| (2) 他者の意図や感情の理解に関する事       | <input type="checkbox"/> 言葉や表情、身振りなどを基にして、他者の意図や感情を理解することができる<br><input type="checkbox"/> 他者の意図や感情に応じた適切な行動をとることができる  | ・自閉症<br>・視覚障害<br>・聴覚障害<br>・白痴病  |
| (3) 自己の理解と行動の調整に関する事       | <input type="checkbox"/> 自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴等を理解している<br><input type="checkbox"/> 集団の中で自ら適切な行動を選択し調整する等して、状況に応じた行動ができる  | ・知的障害<br>・肢体不自由<br>・ADHD<br>・自閉症  |
| (4) 集団への参加の基礎に関する事         | <input type="checkbox"/> 集団に参加するための手順や決まりを理解している<br><input type="checkbox"/> 日常的によく使われる言い回しや、その意味することが分からないときの尋ね方等を理解している<br><input checked="" type="checkbox"/> 集団の雰囲気を理解して、遊びや活動等に参加することができる  | ・視覚障害<br>・聴覚障害<br>・LD<br>・ADHD  |
| 6 コミュニケーション                |   |   |
| (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事   | <input checked="" type="checkbox"/> 表情や身振り、各種機器などを用いて意思や要求を相手に伝えようとする事ができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、伝えるための手段を広げている<br><input checked="" type="checkbox"/> 他人からの働き掛けを受け入れることができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 言葉や気持ちのやりとりを楽しむことができる<br>※コミュニケーションとは、人間が意思や感情などを相互に伝え合うこと | ・重度重複<br>・聴覚障害<br>・自閉症<br>・言語発達遅滞<br>・知的障害  |
| (2) 言語の受容と表出に関する事          | <input type="checkbox"/> 音声や文字、身振りや表情等から、相手の意図を理解することができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 発声・発語器官 (口腔器官) を適切に働かせ、正しい発音を出すことができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号、補助的手段を活用して、自分の考えを表現することができる   | ・脳性まひ・聴覚障害<br>・構音障害・自閉症<br>・ADHD  |
| (3) 言語の形成と活用に関する事          | <input checked="" type="checkbox"/> 体験したことと言語を結び付けることができる<br><input type="checkbox"/> 適切な語彙があり、言葉の意味を正しく理解している<br><input type="checkbox"/> 獲得した言葉を生活の中で生かそうとしている  | ・重度<br>・聴覚障害<br>・言語発達遅滞<br>・視覚障害<br>・LD   |
| (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 | <input checked="" type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーションの手段を身に付けている<br><input type="checkbox"/> 必要に応じて、コミュニケーションの手段を適切に選択できる<br><input type="checkbox"/> 選んだ手段を活用し、コミュニケーションをとることができる  | ・音声言語の表出は困難だが、文字言語の理解ができる<br>・視覚障害<br>・聴覚障害<br>・知的障害<br>・肢体不自由<br>・進行性の病気<br>・自閉症 |
| (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事   | <input type="checkbox"/> 相手の立場や状況に応じて、声の大きさの調整や適切な言葉の使い方などができる<br><input type="checkbox"/> 相手の立場や状況に応じて、電話やコンピューター等コミュニケーションの手段を選択することができる<br><input type="checkbox"/> 場や相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションを展開できる  | ・聴覚<br>・LD<br>・自閉症<br>・環境性かん黙<br>・入院中   |

「他者とのかかわりの基礎に関する事」にチェックが多いことから、児童の長所と捉えられました。

「コミュニケーション手段の選択と活用に関する事」と「状況に応じたコミュニケーションに関する事」には、チェックの数が少ないことや本人の様子から、指導の必要性が高いと考えました。

資料2 情報整理 (「情報整理シート」より一部抜粋)



「3 人間関係の形成」の (2) (3)、「6 コミュニケーション」の (4) (5) は、チェックの数が少ないことから、どちらも自立活動の指導の必要性が高い項目であることが分かりました。「3 人間関係の形成」の (1)と「6 コミュニケーション」の (1) は、チェックの数が多いことから、本人の長所となる項目であると分かりました。

## ②-2 学習上又は生活上の困難の視点で整理

「情報収集シート」の諸検査の結果や学校生活での配慮事項などの記述と、②-1で明らかになった自立活動の指導の必要性が高い区分や項目を踏まえ、学習上又は生活上の困難の視点で整理しました。「～なため〇〇である」と整理することで、困難の背景や要因を明らかにすることができました。



対象児童は、適切なコミュニケーションの手段が十分に身に付いていないため、したいことや困ったことを伝えることが難しいと考えました。整理をする際、「自立活動の具体的な指導内容例（障害種別）」の児童生徒の障害の状態も参考にしました。

## ②-3 将来の姿から整理

「情報収集シート」の本人や保護者の願いや将来の姿の記述を踏まえ、日常生活や学習場面で望まれる姿、小学校卒業時まで身に付けさせたい力について整理しました。



対象児童は、休み時間には、友達と仲良く遊びたいと望んでいます。保護者は、物の片付けなど身の回りのことを自分でできるようになってほしいと願っています。そこで、小学校卒業時まで他者と適切に関わる力を身に付けることや基本的な生活習慣の定着などの指導が必要であると考えました。

## イ 課題の整理

### ③ 実態把握からの課題抽出

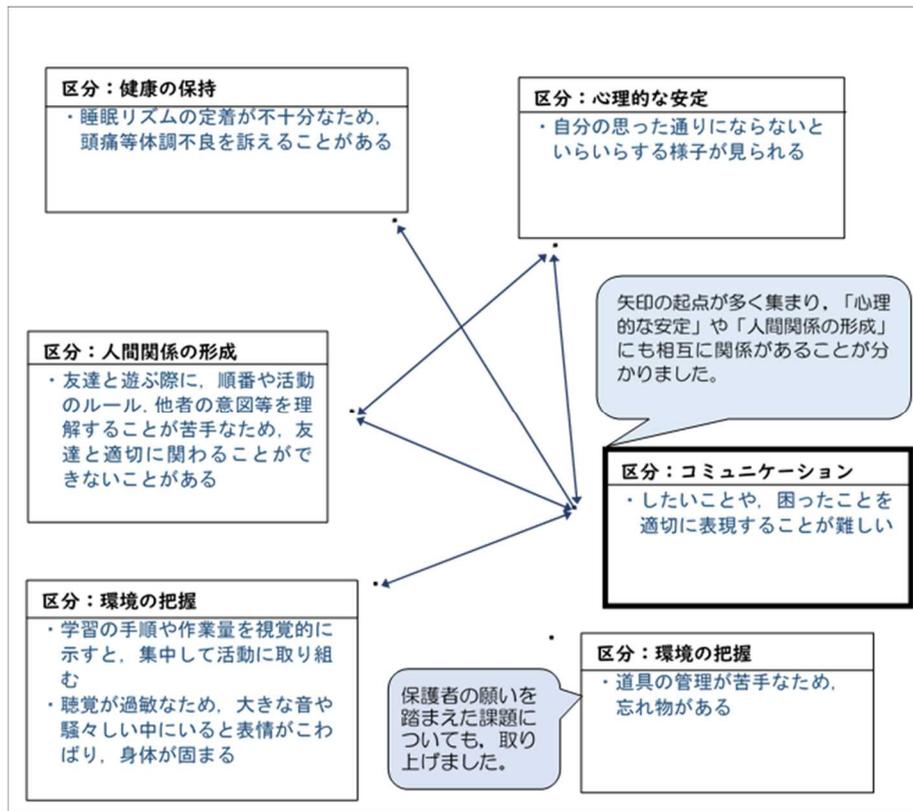
実態把握を通して、対象児童の「できること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」などが明らかになりました。その中から「課題抽出～指導目標シート」に現時点で課題となることを抽出しました（次頁資料3）。その際、児童の現在の姿だけでなく、そこに至る背景や、小学校で指導可能な在学期間、数年後や卒業後までに身に付けさせたい力との関係などを踏まえて抽出するようにしました。



「情報整理シート」の中から、「2 心理的な安定」「3 人間関係の形成」「6 コミュニケーション」などの課題を抽出しました。また、本人や保護者の願いを踏まえ、「5 環境の把握」も課題として抽出しました。

### ④ 中心的な課題の決定

「課題抽出～指導目標シート」を使用して、③で課題同士がどのように関連しているのかを、矢印で結んで整理し、中心的な課題を導き出しました（次頁資料3）。課題同士の関連については、「原因と結果」（→）や「相互に関連し合っている」（↔）などの観点、発達や指導の順序等を意識して矢印を結びました。そして、矢印の数や方向の様子を参考にして中心的な課題を導き出しました。



資料3 課題抽出（「課題抽出～指導目標シート」より一部抜粋）



矢印の数や方向の様子から、自分がしたいことや困ったことをうまく伝えることができないため、いらいらしたり、他者との関わり方に困難さが見られたりしていることが分かりました。そこで、「したいことや困ったことを適切に表現すること」を中心的な課題としました。

ウ ⑤ 指導目標の設定

④で導き出した中心的な課題に基づき、長期の指導目標と短期の指導目標を設定しました（資料4）。長期の指導目標は学年ごと、短期の指導目標は学期ごとと捉えました。段階的に短期の指導目標が達成されることで、長期の指導目標の達成につながるように意識して設定しました。

|  |
|--|
| <p><b>○長期の指導目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを適切な方法で伝えることができる</li> <li>・他者と適切に関わり、安心して学校生活を送ることができる</li> </ul>   |
| <p><b>○短期の指導目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っていることや手伝ってほしいことを身近な教師や友達に伝えることができる</li> <li>・視覚支援を手掛かりに、学校生活に見通しをもつことができる</li> <li>・適切なコミュニケーション手段を身に付ける</li> </ul> |

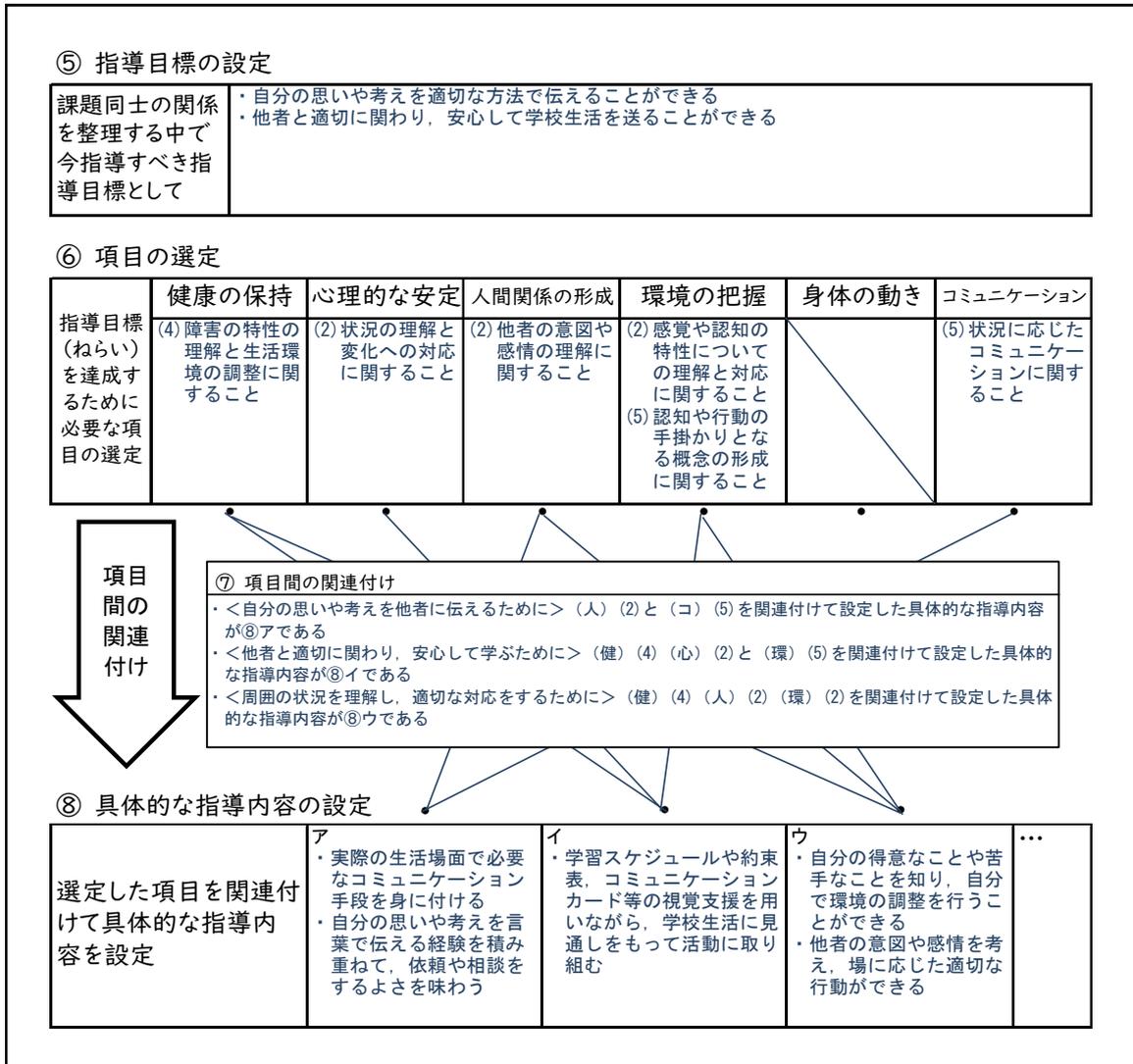
資料4 指導目標の設定（「課題抽出～指導目標シート」より一部抜粋）



長期の指導目標にある「自分の思いや考えを適切な方法で伝えることができる」を達成するために、短期の指導目標で、伝える対象を身近な教師や友達に設定しました。

エ ⑥⑦ 項目の選定及び項目間の関連付け

⑤で示した指導目標を達成するために必要な項目を、「課題抽出～指導目標シート」で導き出した中心的な課題と関連している課題の項目を参考にし、自立活動の6区分27項目の中から選定しました(資料5)。そして、選定した項目同士を「指導目標を達成するためには、このような力を育てる必要がある。したがって、区分○○○の項目○○と区分□□□の項目□□と関連付けて指導する」などと項目同士を関連付けました。



資料5 項目間の関連付け(「流れ図シート」より一部抜粋)



対象児童の指導目標を達成するためには、「自分の思いや考えを他者に伝える力」「他者と適切に関わり、安心して学ぶ力」「周囲の状況を理解し、適切な対応をする力」を育てる必要があると捉え、自立活動の区分や項目間の関連付けを考えました。

オ ⑧ 具体的な指導内容の設定

⑥⑦を踏まえ、指導目標を達成するための具体的な指導内容を設定しました(資料5)。その際、⑥で選定した項目と児童の障害の状態と照らし合わせながら、「自立活動の具体的な指導内容例(障害種別)」にチェックを付けました(次頁資料6)。そして、チェックを付けた具体的な指導内容例と留意点を参考にして、児童が興味をもって主体的に取り組むことができる内容や児童の長所を生かした内容を取り入れたり、学習環境に配慮したりしながら指導を行

うことができるように設定しました。

対象児童の実態から、このシートを参考にしました。

| 自閉症・情緒障害       |                             | 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説より                             |   |  |      |
|----------------|-----------------------------|---|---|--|------|
| 区分             | 項目                          | 他の項目との関連例   | 児童生徒の障害の状態  | 具体的な指導内容例と留意点  | マーカー |
| 2<br>心理的な安定    | (2) 状況の理解と変化への対応に関すること      | 本人が願って次の活動に移ることができるような指導については、「3人間関係の形成」「4環境の把握」等 | 特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場面に切り替えることが難しいことがある  | 特定の動作や行動等を無理にやめさせるのではなく、本人が納得して次の活動に移ることができるように段階的に指導することが大切である  |      |
|                |                             |   | 「まだやりあせまいしては、自分にとって快適な状態を維持したり、不安な気持ちを和らげるために自分を落ち着かせよう」と行動していたりしていることがある   | 特定の動作や行動を行ってよい場面や活動をあらかじめ決めたり、自分で予定表を書いて確かめたりして、見通しをもって落ち着いて取り組めるように指導することが有効である   | ✓    |
| 3<br>人間関係の形成   | (2) 他者の意図や感情の理解に関すること       |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが困難な場合がある</li> <li>言葉を字義通りに受け止めてしまう場合があるため、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違えることがある</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活上の様々な場面を想定し、そこでの相手の言葉や表情などから、相手の立場や相手が考えているなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付けることが大切である</li> </ul>   | ✓    |
| 4<br>環境の把握     | (5) 認知や行動の手掛りとなる概念の形成に関すること |   | 「もう少し」、「そのくらい」、「大丈夫」など、意味内容に類のある抽象的な表現を理解することが困難な場合があるため、指示の内容を具体的に理解することが難しいことがある  | 指示の内容や作業手順、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材・教具等の工夫を行うとともに、手順表などを活用しながら、順序や時間、量などの概念等を形成できるようにすることが大切である   | ✓    |
|                |                             |   | 興味のある事柄に注意が集中する傾向があるため、結果的に活動等の全体像が把握できないことがある  | 一部分だけでなく、全体を把握することが可能となるように、順序に従って全体を把握する方法を練習することが大切である   | ✓    |
| 6<br>コミュニケーション | (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること   | 適切に報告したり相談したりする力を育てるには、「2心理的な安定」「3人間関係の形成」等       | 会話の内容や周囲の状況を読みとることが難しい場合があるため、状況にそぐわない受け答えをすることがある  | 相手の立場に合わせた言葉遣いや場面に合った声の大きさなど、場面にふさわしい表現方法を身に付けることが大切である  | ✓    |
|                |                             |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>援助を求めたり依頼したりするだけでなく、必要なことを伝えたり、相談したりすることが難しいことがある</li> <li>思考を言葉にして目的に沿って話すことや他者の視点に立つて考えることが苦手なことなどがある</li> <li>コミュニケーションにすれ違いが生じることが多いことから、話す意欲が低下していることがある</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に報告の場面をつくることや相手に伝えるための話し方を学習すること、ホワイトボードなどを使用して気持ちや考えを書きながら整理していくことが大切である</li> <li>コミュニケーションの基礎的な指導を工夫するほか、安心して自分の気持ちを言葉で表現する経験を重ね、相談することのよさが実感できるように指導していくことが大切である</li> <li>自分のコミュニケーションの傾向を理解していくことが重要である</li> </ul> | ✓    |

マーカーを引いた箇所は、チェックする根拠となった記述や指導内容を検討する際に参考にした記述です。

資料6 「自立活動の具体的な指導内容例(障害種別)」を基に作成



対象児童の具体的な指導内容として3つ設定しました。⑧アについては、「3 人間関係の形成」の(2)と「6 コミュニケーション」の(5)を参考にして、「実際の生活場面で必要なコミュニケーション手段を身に付ける」等の指導内容を設定しました。

### カ 事例を振り返って

本研究で作成したシート等を使用することで、自立活動の指導を進めるために必要な情報を収集し、児童の実態に応じた具体的な指導内容を設定することができました。「情報整理シート」は、できる項目にチェック(☑)を付けるようになっていたため、対象児童の長所を改めて確認することができ、指導内容の設定に生かすことができました。「自立活動の具体的な指導内容例(障害種別)」の具体的な指導内容例と留意点は、対象児童の実態に応じた指導内容を検討する際に大変参考になりました。

今回の取組を通して、対象児童のニーズに応じた自立活動の指導の進め方について理解を深めることができました。今後の自立活動の指導につなげていきたいと考えます。

次頁からは、本事例で実際に使用したシート等を掲載しています。

## 流れ図シート

実態把握

### ① 情報収集

- ・ 休み時間は、友達と一緒に虫を捕まえに行ったり、図書館に本を借りに行ったりしている
- ・ 活動内容の手順や作業量を視覚的に示し見通しをもたせると、集中して活動に取り組むことができる
- ・ 睡眠リズムの定着が不十分で、頭痛等体調不良を訴えることがある
- ・ したいことや困ったことをうまく伝えることが難しい
- ・ 友達と遊ぶ際に、順番や活動のルール、他者の意図等を理解することが苦手なため、友達と適切に関わるできないことがある
- ・ 大きな音や騒々しい中っていると表情がこわばり、身体が固まる様子が見られる
- ・ 道具の管理が苦手で、忘れものがある
- ・ 作品作りなど、自分が思った通りにならないといらいらす様子が見られる
- ・ 好きな活動をしている時は、次の活動への切り替えに時間が掛かる

### ②-1 情報整理(区分に即して整理)

| 健康の保持  | 心理的な安定  | 人間関係の形成  | 環境の把握  | 身体の動き | コミュニケーション  |
|--|---|--|--|-------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 睡眠リズムの定着が不十分で、頭痛等体調不良を訴えることがある</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品作りなど、自分の思った通りにならないといらいらす様子が見られる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と遊ぶ際に、順番や活動のルール、他者の意図等を理解することが苦手なため、友達と適切に関わるできないことがある</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きな音や騒々しい中っていると表情がこわばり、身体が固まる様子が見られる</li> </ul> | /     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ したいことや困ったことをうまく伝えることが難しい</li> </ul> |

### ②-2 情報整理(学習上又は生活上の困難の視点で整理)

- (学習面)
- ・ 興味のあることに注意が集中するため、活動の切り替えに時間が掛かる
  - ・ 適切なコミュニケーションの手段が十分に身に付いていないため、したいことや困ったことを伝えることが難しい
  - ・ 人と適切に関わる手段が身に付いていないため、他者の意図の理解が難しい
  - ・ 道具の管理が苦手なため、忘れ物がある
- (生活面)
- ・ 聴覚が過敏なため、大きな音や騒々しい中っていると表情がこわばり、身体が固まる
  - ・ 睡眠リズムの定着が不十分なため、頭痛等体調不良を訴えることがある

### ②-3 情報整理(将来の姿から整理)

- (本人)
- ・ 友達と仲良く遊びたいと望んでいる
  - ・ 好きな本を読んだり、好きなキャラクターの絵を描いたりして、ゆっくり過ごすことを望んでいる
  - ・ できることや頑張っていることを、みんなに褒めてもらいたい気持ちがあることから、本人が活躍できる場の設定が必要である
  - ・ 将来は〇〇になりたいと望んでいることから、職業生活に必要な知識や態度を身に付ける必要がある
- (保護者)
- ・ 物の片付けなど、自分のことは自分でできるようになってほしいと願っている
  - ・ 家庭では、兄弟仲良く過ごしてほしいと望んでいる

[流れ図シート]

|            |  |
|------------|--|
| 指導すべき課題の整理 | <p>③ 実態把握からの課題抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の手順や作業量を視覚的に示すと、集中して活動に取り組む（環）</li> <li>・したいことや困ったことを適切に表現することが難しい（コ）</li> <li>・友達と遊ぶ際に、順番や活動のルール、他者の意図等を理解することが苦手なため、友達と適切に関わるできないことがある（人）</li> <li>・自分の思った通りにならないと、いらいらする様子が見られる（心）</li> <li>・聴覚が過敏なため、大きな音や騒々しい中にいると表情がこわばり、身体が固まる（環）</li> <li>・睡眠リズムの定着が不十分なため、頭痛等体調不良を訴えることがある（健）</li> <li>・道具の管理が苦手なため、忘れ物がある（環）</li> </ul> |
|            | <p>④ 中心的な課題の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がしたいことや困ったことをうまく伝えることができないため、いらいらしたり、他者との関わり方に困難が見られたりしていることが考えられる。これらの課題を解決するためには、状況に応じた適切なコミュニケーションの手段を身に付ける必要がある</li> </ul>  |

⑤ 指導目標の設定

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを適切な方法で伝えることができる</li> <li>・他者と適切に関わり、安心して学校生活を送ることができる</li> </ul> |
|-----------------------------|---|

⑥ 項目の選定

|                           | 健康の保持                      | 心理的な安定                 | 人間関係の形成               | 環境の把握  | 身体の動き | コミュニケーション                 |
|---------------------------|----------------------------|------------------------|-----------------------|--|-------|---------------------------|
| 指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定 | (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること | (2) 状況の理解と変化への対応に関すること | (2) 他者の意図や感情の理解に関すること | (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること<br>(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること |       | (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること |

項目間の関連付け

⑦ 項目間の関連付け

- ・＜自分の思いや考えを他者に伝えるために＞（人）(2)と（コ）(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧アである
- ・＜他者と適切に関わり、安心して学ぶために＞（健）(4)（心）(2)と（環）(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧イである
- ・＜周囲の状況を理解し、適切な対応をするために＞（健）(4)（人）(2)（環）(2)を関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧ウである

⑧ 具体的な指導内容の設定

|                         |   |   |  |     |
|-------------------------|---|---|--|-----|
| 選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定 | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の生活場面で必要なコミュニケーション手段を身に付ける</li> <li>・自分の思いや考えを言葉で伝える経験を積み重ねて、依頼や相談をするよさを味わう</li> </ul> | <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習スケジュールや約束表、コミュニケーションカード等の視覚支援を用いながら、学校生活に見通しをもって活動に取り組む</li> </ul> | <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意なことや苦手なことを知り、自分で環境の調整を行うことができる</li> <li>・他者の意図や感情を考え、場に応じた適切な行動ができる</li> </ul> | ... |
|-------------------------|---|---|--|-----|

## [情報収集シート]

記入者： ○○ ○○ 記入日： ○ 年 ○ 月 ○ 日

|   |   |    |      |             |
|---|---|----|------|-------------|
| ふりがな                                      | ○○ ○○   | 性別 |      | ○○小 学校      |
| 氏名  | ○○ ○○   | ○  | 所 属  | 3 年 ○ 組     |
| 家族構成                                      | ○, ○, 本人, ○   |    | 生年月日 | ○ 年 ○ 月 ○ 日 |
| 障害の種類・程度や状態等                              | ・自閉スペクトラム症（○年○月○日）  |    |      |             |
| 諸検査の結果<br>（心理検査・学力検査等）                    | ・WISC-IV 全検査○○<br>言語理解○○ 知覚推理○○ ワーキングメモリー○○ 処理速度○○<br>（ワーキングメモリーが高く、処理速度が低い）  |    |      |             |
| 地域・関係機関                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達相談機関○○を月1回利用している</li> <li>・放課後等デイサービスを利用している</li> <li>・○○病院に定期受診している</li> <li>・○○を服薬している</li> </ul>   |    |      |             |
| 本人のねがい                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と仲良く遊びたい</li> <li>・得意なことや頑張っていることをみんなに褒めてもらいたい</li> </ul>   |    |      |             |
| 保護者のねがい                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムを整えて元気に過ごしてほしい</li> <li>・兄弟仲良く過ごしてほしい</li> <li>・落ち着いて宿題に取り組んでほしい</li> </ul>  |    |      |             |
| 興味・関心                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・図鑑の本を読むことを好んでいる</li> <li>・生き物を飼育することに興味をもっている</li> <li>・キャラクター等のパズルを組み立てることを好んでいる</li> <li>・新出漢字やローマ字など文字を書くことに関心がある</li> </ul>   |    |      |             |
| 学校生活での配慮事項<br>・学习上<br>・生活上<br>・施設・設備や補助用具 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や支援員が、児童に次の学習活動の予告をしている</li> <li>・朝の時間や帰りの会の時間に、教師と一緒にプリントの整理や学習道具の確認を行っている</li> <li>・特別支援学級に、着替えコーナーを用意し、体育の時間の着替えを促している</li> <li>・休み時間には、トイレに行くことや水分補給をする際、教師が声を掛けて促している</li> </ul> |    |      |             |
| 将来の姿<br>・進路<br>・卒業後                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人は、○○になりたいと思っている</li> <li>・保護者は、自分のことは自分でできるようになってほしいと願っている</li> </ul>   |    |      |             |
| その他                                       | ・週20時間程度を特別支援学級で学習している  |    |      |             |

## [情報収集シート]

|  |  |
|--|--|
| <p><b>1 健康の保持</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣</li> <li>・ 病気や体調の状態</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 睡眠リズムの定着が不十分で、頭痛を訴えることがある</li> <li>・ 食事は、好き嫌いが多く小食である</li> <li>・ 少しのけがを気にして教師に訴えることがある</li> <li>・ 教師が身なりを整えるように声を掛けると、一人で行ける</li> </ul>   |
| <p><b>2 心理的な安定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情緒の安定</li> <li>・ 環境や周囲のものに対するかかわり</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 好きな活動には、2時間ぐらい集中して取り組む</li> <li>・ 好きな活動をしている時は、次の活動への切り替えに時間が掛かる</li> <li>・ 苦手な課題があると、手遊びが多くなる</li> <li>・ 自分の思った通りにならないといらいらす様子が見られる</li> </ul>   |
| <p><b>3 人間関係の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者とのかかわり</li> <li>・ 集団への参加</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休み時間は、友達と一緒に虫を捕まえに行ったり、図書館に本を借りに行ったりしている</li> <li>・ クラスのお楽しみ会では、ものまねをして友達を楽しませた</li> <li>・ 教師の言葉掛け等で見通しをもたせると、友達と協力してグループ活動ができる</li> <li>・ 友達と遊ぶ際に、順番や活動のルール、他者の意図等を理解することが苦手なため、友達と適切に関わることができないことがある</li> </ul> |
| <p><b>4 環境の把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感覚や認知の特性</li> <li>・ 感覚の補助及び代行手段</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の手順や作業量を視覚的に示すと、集中して活動に取り組むことができる</li> <li>・ 大きな音や騒々しい中にいると表情がこわばり、身体が固まる様子が見られる</li> <li>・ プリント類や学習道具の整理整頓が苦手である</li> </ul>  |
| <p><b>5 身体の動き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活に必要な動作の様子</li> <li>・ 姿勢や運動・動作の様子</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 折り紙や粘土を使った遊びを好んでいる</li> <li>・ 文字は丁寧に書くが、時間が掛かる</li> <li>・ キャッチボールや縄跳び、ラジオ体操などの動作の大きい運動では、ぎこちない様子が見られる</li> <li>・ 姿勢を長時間保つことが難しい</li> </ul>  |
| <p><b>6 コミュニケーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語等でのやりとり</li> <li>・ 言語の表出や理解</li> <li>・ 状況に応じたコミュニケーション</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の説明が長いと内容を聞き漏らすことがある</li> <li>・ したいことや困ったことをうまく伝えることが難しい</li> </ul>   |

[情報整理シート]

児童の実態から、現段階では着目しない項目には、斜線を引きました。

学習指導要領の具体的な指導内容例に示された障害種

1 健康の保持

|  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| <p>(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること</p>   | <p>【生活のリズム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>朝、決まった時間に起きることができる</li> <li><input type="checkbox"/>日中、目覚めた状態を維持することができる</li> <li><input type="checkbox"/>就寝時間を守ることができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>規則正しく、食事をとることができる</li> <li><input type="checkbox"/>排泄等の規則正しい生活のリズムが身に付いている</li> </ul> | <p>【生活習慣の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>体温の調節ができる</li> <li><input type="checkbox"/>体調の変化に気付くことができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>温度に適した衣服の調節ができる</li> <li><input type="checkbox"/>適切な室温の調節や換気ができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>髪や身体、服装などを清潔に保つことができる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度重複</li> <li>・視覚障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・ADHD</li> </ul> |
| <p>(2)病気の状態の理解と生活管理に関すること</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>自分の病気を理解し、病状に応じた対応をすることができる</li> <li><input type="checkbox"/>体調の変化に気付いたり、病気の予防等を心掛けたりすることができる</li> <li><input type="checkbox"/>服薬等の必要性について理解し、自己管理をすることができる</li> <li><input type="checkbox"/>病状を維持・改善するため、自分の生活を管理することができる</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病</li> <li>・二分脊椎</li> <li>・進行性疾患</li> <li>・うつ病・口蓋裂</li> <li>・てんかん</li> <li>・小児がん</li> </ul>   |   |
| <p>(3)身体各部の状態の理解と養護に関すること</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>病気や事故等による神経、筋、骨、皮膚等の身体各部の状態や、眼、耳等の構造を理解している</li> <li><input type="checkbox"/>病気や事故等による身体各部を適切に保護することができる</li> <li><input type="checkbox"/>病気や事故等による身体各部の症状の進行を防止することができる</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・下肢切断による義肢装着</li> <li>・床ずれ</li> <li>・筋ジストロフィー</li> </ul>  |   |
| <p>(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>自分の障害の特性について理解している</li> <li><input type="checkbox"/>障害によって生じる学習上又は生活上の困難について理解している</li> <li><input type="checkbox"/>困難な状況に対して、自己の行動や感情を調整することができる</li> <li><input type="checkbox"/>生活する上で必要な支援を、主体的に他者に求めることができる</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・吃音</li> <li>・自閉症</li> <li>・LD・ADHD</li> <li>・視野の障害</li> <li>・聴覚障害</li> </ul>  |   |
| <p>(5)健康状態の維持・改善に関すること</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>肥満や体力低下を防ぐため、適度な運動を行うことができる</li> <li><input type="checkbox"/>肥満や体力低下を防ぐため、食生活を自己管理することができる</li> <li><input type="checkbox"/>健康状態が分かり、その状態に応じた適切な健康管理ができる</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度重複</li> <li>・たんの吸入等医療的ケア</li> <li>・知的障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・心臓疾患</li> </ul>   |   |
| <p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関へ定期受診している</li> <li>・〇〇を服薬している</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「健康の保持」では、睡眠のリズムの定着が不十分で、頭痛等体調不良を訴えるという実態がありました。</p> </div> |   |   |   |

2 心理的な安定

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p>(1)情緒の安定に関すること</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>悩みを打ち明ける等、自分の不安な気持ちを表現することができる</li> <li><input type="checkbox"/>興奮を静めたり不安を和らげたりする等、情緒を安定させる方法を理解している</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>情緒を安定させる方法を、実際に行うことができる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・白血病・自閉症</li> <li>・ADHD・LD</li> <li>・チック・重度重複</li> <li>・心身症</li> </ul>                       |
| <p>(2)状況の理解と変化への対応に関すること</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>環境や周囲の状況を理解することができる</li> <li><input type="checkbox"/>環境や周囲の状況の変化に対し、適切に対応することができる</li> <li><input type="checkbox"/>見通しをもち、その場に応じた行動の仕方を身に付けている</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・選択性かん黙</li> <li>・自閉症</li> </ul>  |
| <p>(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>自分の障害の状態を理解したり、受容したりしている</li> <li><input type="checkbox"/>障害に伴う学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲をもっている</li> <li><input type="checkbox"/>自己を肯定的に捉え、積極的に活動に取り組もうとしている</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋ジストロフィー</li> <li>・肢体不自由</li> <li>・LD</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・吃音</li> <li>・知的障害</li> </ul> |
| <p>備考</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「心理的な安定」では、自分の想像した通りにならないという様子が見られました。その際は、大人が声を掛けてクールダウンを促しています。(2)(3)の項目は、自立活動の指導の必要性が高いと考えました。</p> </div> |  |   |

[情報整理シート]

### 3 人間関係の形成

|                      |   |  |
|----------------------|---|--|
| (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 | <input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児期（3歳頃まで）に身近な人と親密な関係を築いている<br><input checked="" type="checkbox"/> 他者とのかかわりに関心をもっている<br><input checked="" type="checkbox"/> 他者からの働き掛けを受け止めることができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 他者からの働き掛けに応ずることができる | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度</li> <li>・自閉症</li> <li>・視覚障害</li> </ul>                   |
| (2) 他者の意図や感情の理解に関する事 | <input type="checkbox"/> 言葉や表情、身振りなどを基にして、他者の意図や感情を理解することができる<br><input type="checkbox"/> 他者の意図や感情に応じた適切な行動をとることができる  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症</li> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・白痴病</li> </ul>   |
| (3) 自己の理解と行動の調整に関する事 | <input type="checkbox"/> 自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴等を理解している<br><input type="checkbox"/> 集団の中で自ら適切な行動を選択し調整する等して、状況に応じた行動ができる  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害</li> <li>・肢体不自由</li> <li>・ADHD</li> <li>・自閉症</li> </ul> |
| (4) 集団への参加の基礎に関する事   | <input type="checkbox"/> 集団に参加するための手順や決まりを理解している<br><input type="checkbox"/> 日常的によく使われる言い回しや、その意味することが分からないときの尋ね方等を理解している<br><input checked="" type="checkbox"/> 集団の雰囲気を理解して、遊びや活動等に参加することができる  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・LD</li> <li>・ADHD</li> </ul>   |
| 備考                   | <p>「人間関係の形成」では、(1)の項目にチェックが多く付き、他者とのかかわりの基礎に関する事は、対象児童の長所だと捉えました。(2)(4)の項目は、自立活動の指導の必要性が高いと考えました。</p>   |  |

### 4 環境の把握

|   |  |   |
|---|--|---|
| (1) 保有する感覚の活用に関する事                        | <input checked="" type="checkbox"/> 学習や生活の場面で、保有する感覚を活用している<br>※保有する感覚とは、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚等<br>※固有覚とは、筋肉や関節の動きなどによって生じる自分自身の身体の情報を受け取る感覚。主に力の加減や動作等に関係している<br>※前庭覚とは、重力や動きの加速度を感知する感覚。主に姿勢のコントロール等に関係している<br>【例】視覚障害の児童生徒が聴覚や触覚、嗅覚を手掛かりに活動したり、弱視であれば保有する視覚を最大限に活用したりすること           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・肢体不自由</li> <li>・重度重複</li> </ul>   |
| (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事               | <input type="checkbox"/> 自分の感覚の過敏さや認知の偏り等の特性について理解している<br><input type="checkbox"/> 自分の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理することができる<br><input type="checkbox"/> 自分の感覚や認知の特性に応じた対処の方法を積極的に活用し、不得意なことを改善しようとしている<br>※認知とは、感覚を通して得られる情報を基に行われる情報処理の過程であり、記憶する、思考する、決定する、推理する、イメージを形成するなどの心理的な活動 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・ADHD</li> <li>・LD</li> <li>・脳性疾患</li> <li>・脳性まひ</li> <li>・体の動かし方にぎこちなさがある</li> </ul> |
| (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事                   | <input type="checkbox"/> 状況を把握しやすくするために、各種の補助機器（弱視レンズや感光器等）を活用している<br><input type="checkbox"/> 状況を把握しやすくするために、他の感覚を適切に活用することができる（聴覚障害者の手話の使用等）<br><input type="checkbox"/> 状況を把握しやすくするために、機器での代行が的確にできる（学習障害のある者の ICT の使用等）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・弱視</li> </ul>   |
| (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事 | <input type="checkbox"/> 保有するいろいろな感覚やその補助及び代行手段を総合的に活用して、情報を収集することができる<br><input type="checkbox"/> 感覚を総合的に活用し、周囲の状況を的確に把握することができる<br><input type="checkbox"/> 情報を収集したり、環境の状況を把握したりして、的確な判断や行動をすることができる   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・知的障害</li> <li>・LD</li> <li>・肢体不自由</li> </ul>  |
| (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事               | <input checked="" type="checkbox"/> 保有する感覚などを用い、ものの機能や属性、形、色、音が変化の様子、空間・時間等の概念を形成することができる<br><input type="checkbox"/> 自分の経験によって作り上げてきた概念を、日常の学習や生活における認知や行動を進めていくために活用することができる<br>※概念とは、個々の事物・事象に共通する性質を抽象し、まとめ上げることによって作られるもの   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・肢体不自由</li> <li>・知的障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・ADHD</li> <li>・LD・弱視</li> <li>・聴覚障害</li> </ul>        |
| 備考  | <p>「環境の把握」では、大きな音や周囲の騒々しさに敏感で緊張する様子が見られました。(2)(5)の項目は、自立活動の指導の必要性が高いと考えました。</p>  |   |

[情報整理シート]

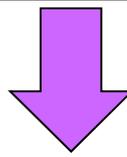
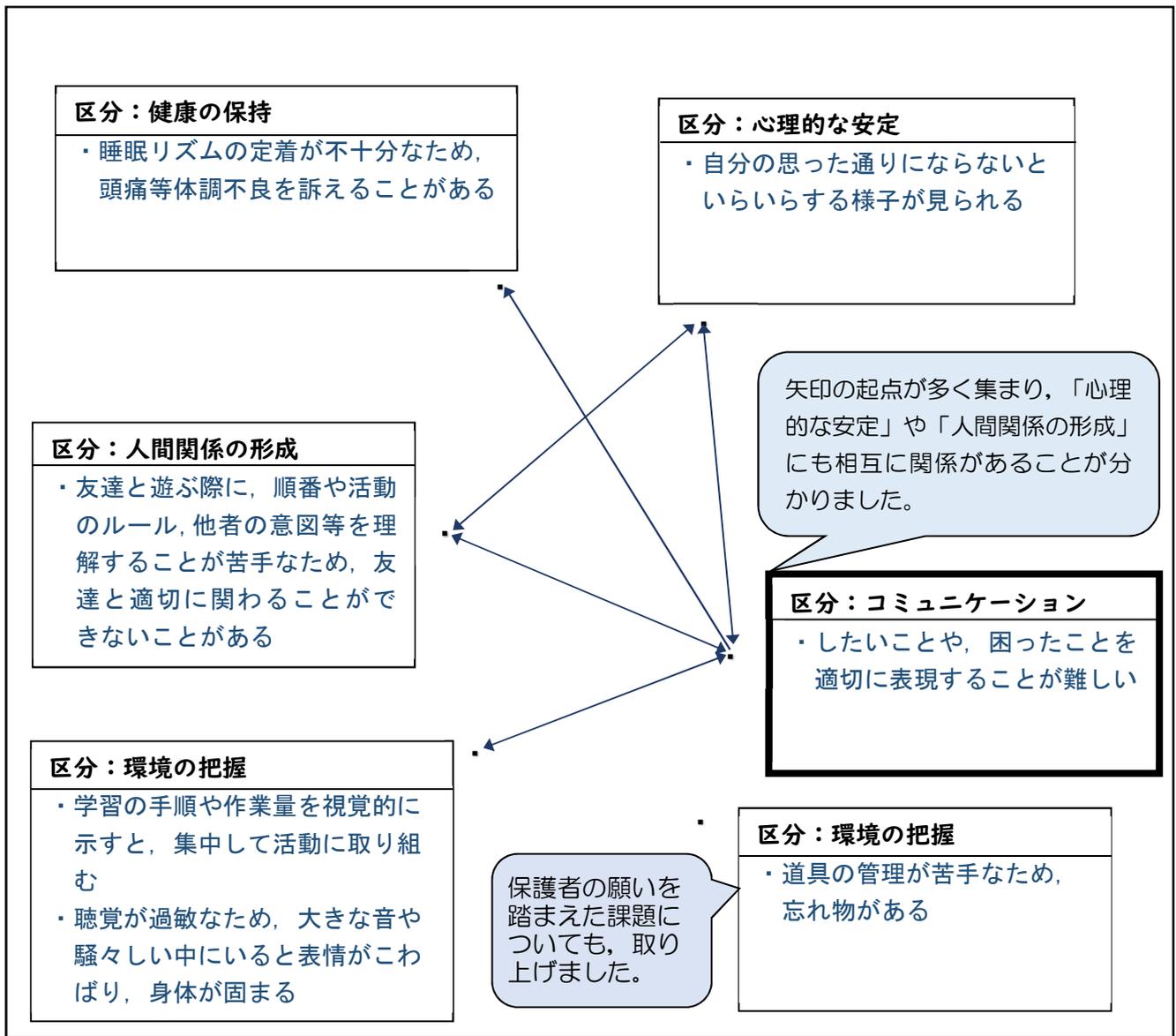
## 5 身体の動き

|  |  |   |
|--|--|---|
| (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事   | <input checked="" type="checkbox"/> 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持（臥位、座位、立位等）ができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 身体の部位を適切に動かしたり、指示を聞いて姿勢等を変えたりすることができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 関節拘縮（関節の可動域が制限され、屈曲・伸展が困難になる状態）や変形予防のための筋力維持・強化を図る適度な運動ができる            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由</li> <li>・筋ジストロフィー</li> <li>・知的障害・視覚障害</li> <li>・ADHD</li> </ul>                    |
| (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事  | <input type="checkbox"/> 基本動作の改善、取得のため補助的手段を活用することができる<br><input type="checkbox"/> 目的や用途に応じて適切な補助用具（つえ、歩行器、車椅子等）を選び、活用することができる<br><input type="checkbox"/> 自分に合うように補助用具の使用の仕方を工夫し、調整することができる<br>※基本動作とは、姿勢保持と上肢・下肢の運動・動作を含めており、姿勢保持、姿勢変換、移動、四肢の粗大運動と微細運動に分けることができる | <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助用具が必要</li> <li>・重度重複</li> </ul>   |
| (3)日常生活に必要な基本動作に関する事   | <input checked="" type="checkbox"/> 座位、立位を保持しながら、上肢を動かすことができる<br><input type="checkbox"/> 食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴などの身辺処理ができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 書字、描写等の学習のための基本動作ができる  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・座位、立位を保持しながら上肢を動かす</li> <li>・運動・動作が極めて困難</li> <li>・知的障害</li> <li>・LD</li> </ul>           |
| (4)身体の移動能力に関する事  | <input checked="" type="checkbox"/> 自力での身体移動（寝返りや腹這いなど）や歩行ができる<br><input type="checkbox"/> 歩行器を用いたり車いすを使用したりしながら、日常生活に必要な移動ができる<br><input type="checkbox"/> 交通機関の利用など、社会的な場面で目的地まで移動ができる   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害・心臓疾患</li> <li>・筋力が弱く、歩行に必要な緊張が得られない</li> <li>・運動・動作が極めて困難</li> <li>・肢体不自由</li> </ul> |
| (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事   | <input checked="" type="checkbox"/> 作業に必要な基本動作（自分一人で、あるいは補助的手段を活用して座位保持ができ、机上で上肢を曲げたり伸ばしたり、ものを握ったり離したりする等）を行うことができる<br><input type="checkbox"/> 作業に必要な基本動作の巧緻性や敏捷性を身に付けている<br><input type="checkbox"/> 作業の正確さと速さを維持し、持続して作業を行うことができる                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由</li> <li>・ADHD</li> <li>・自閉症</li> <li>・知的障害</li> </ul>                              |
| 備考 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 200px; width: fit-content;">             「身体の動き」では、(5)の項目は、自立活動の指導の必要性が高いと考えました。           </div> |  |   |

## 6 コミュニケーション

|  |  |   |
|--|--|---|
| (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事  | <input checked="" type="checkbox"/> 表情や身振り、各種機器などを用いて意思や要求を相手に伝えようとする事ができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、伝えるための手段を広げている<br><input checked="" type="checkbox"/> 他の人からの働き掛けを受け入れることができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 言葉や気持ちのやりとりを楽しむことができる<br>※コミュニケーションとは、人間が意思や感情などを相互に伝え合うこと | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度重複</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・言語発達の遅れ</li> <li>・知的障害</li> </ul>   |
| (2)言語の受容と表出に関する事   | <input type="checkbox"/> 音声や文字、身振りや表情等から、相手の意図を理解することができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 発声・発語器官（口腔器官）を適切に働かせ、正しい発音を出すことができる<br><input checked="" type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号、補助的手段を活用して、自分の考えを表現することができる  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・脳性まひ・聴覚障害</li> <li>・構音障害・自閉症</li> <li>・ADHD</li> </ul>  |
| (3)言語の形成と活用に関する事   | <input checked="" type="checkbox"/> 体験したことと言語を結び付けることができる<br><input type="checkbox"/> 適切な語彙があり、言葉の意味を正しく理解している<br><input type="checkbox"/> 獲得した言葉を生活の中で生かそうとしている   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・言語発達の遅れ</li> <li>・視覚障害</li> <li>・LD</li> </ul>  |
| (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事  | <input checked="" type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーションの手段を身に付けている<br><input type="checkbox"/> 必要に応じて、コミュニケーションの手段を適切に選択できる<br><input type="checkbox"/> 選んだ手段を活用し、コミュニケーションをとることができる   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声言語の表出は困難だが、文字言語の理解ができる</li> <li>・視覚障害</li> <li>・弱視</li> <li>・聴覚障害・知的障害</li> <li>・肢体不自由</li> <li>・進行性の病気</li> <li>・自閉症</li> <li>・LD</li> </ul> |
| (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事  | <input type="checkbox"/> 相手の立場や状況に応じて、声の大きさの調整や適切な言葉の使い方などができる<br><input type="checkbox"/> 相手の立場や状況に応じて、電話やコンピューター等コミュニケーションの手段を選択することができる<br><input type="checkbox"/> 場や相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションを展開できる   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・LD</li> <li>・自閉症</li> <li>・選択性かん黙</li> <li>・入院中</li> </ul>   |
| 備考 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 200px; width: fit-content;">             「コミュニケーション」では、(1)の項目にチェックが多く、対象児童の長所だと分かりました。一方、(5)の項目は、自立活動の指導の必要性が高いと考えました。           </div> |  |   |

[課題の抽出～指導目標シート]



|  |
|--|
| <p><b>○長期の指導目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを適切な方法で伝えることができる</li> <li>・他者と適切に関わり、安心して学校生活を送ることができる</li> </ul>   |
| <p><b>○短期の指導目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っていることや手伝ってほしいことを身近な教師や友達に伝えることができる</li> <li>・視覚支援を手掛かりに、学校生活に見通しをもつことができる</li> <li>・適切なコミュニケーション手段を身に付ける</li> </ul> |

[自立活動の具体的指導内容例（障害種別）]

自閉症・情緒障害

対象児童の実態から、このシートを参考にしました。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説より

| 区分         | 項目                        | 他の項目との関連例   | 児童生徒の障害の状態   | 具体的な指導内容例と留意点   | チェック   |   |
|------------|---------------------------|---|--|---|--|---|
| I<br>健康の保持 | (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の食物や衣服に強いこだわりを示す場合があり、極端な偏食になったり、季節の変化にかかわらず同じ衣服を着続けたりすることがある</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の児童生徒の困難の要因を明らかにした上で、無理のない程度の課題から取り組むことが大切である</li> <li>生活のリズムや生活習慣の形成は、日課に即した日常生活の中で指導をすることによって養うことができる場合が多い</li> <li>生活のリズムや生活習慣の形成に関する指導を行う際には、対象の児童生徒の1日の生活状況を把握する必要がある</li> </ul>  |  |   |
|            |                           |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>相手からどのように見られているのかを推測することが苦手な場合がある</li> <li>整髪や着衣の乱れなど身だしなみを整えることに関心が向かないことがある</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>清潔や衛生を保つことの必要性を理解できるようにし、家庭等との密接な連携の下に不衛生にならないように日常的に心がけられるようにすることが大切である</li> </ul>  |  |   |
|            |                           |   | <p>体調の管理に関する指導については、<br/>「3人間関係の形成」<br/>「4環境の把握」<br/>「6コミュニケーション」等</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の体調がよくない、悪くなりつつある、疲れているなどの体調がわからずに、無理をしてしまうことがあり、体調を崩したり、回復に非常に時間がかかったりすることがある</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康を維持するために、気になることがあっても就寝時刻を守るなど、規則正しい生活をするための大切さについて理解したり、必要に応じて衣服を重ねるなどして温度に適した衣服の調節をすることを身に付けたりすることが必要である</li> <li>体調を自己管理するために、客観的な指標となる体温を測ることを習慣化し、体調がよくないと判断したら、その後の対応を保護者や教師と相談することを学ぶなどの指導が大切である</li> </ul> |   |
|            | (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事 | <p>マーカーで引いた箇所は、チェックする根拠となった記述や指導内容を検討する際に参考にした記述です。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>感覚の過敏さやこだわりがある場合、大きな音がしたり、予定通りに物事が進まなかったりすると、情緒が不安定になることがある</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康に関する習慣について指導する場合には、自己を客観視するため、例えば、毎朝その日の体調を記述したり、起床・就寝時刻などを記録したりして、スケジュール管理をすること、自らの体内の感覚に注目することなどの指導をすることが大切である</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分から別の場所へ移動したり、音量の調整や予定を説明してもらったことを他者に依頼したりするなど、自ら刺激の調整を行い、気持ちを落ち着かせることができるようにすることが大切である</li> </ul>   | ✓ |
|            |                           |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量が少なく、結果として肥満になったり、体力低下を招いたりすることがある</li> <li>心理的な要因により不登校の状態が続き、運動量が極端に少なくなったり、食欲不振の状態になったりする場合がある</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>体力低下を防ぐためには、運動することへの意欲を高めながら適度な運動を取り入れたり、食生活と健康について実際の生活に即して学習したりするなど、日常生活において自己の健康管理ができるようにするための指導が必要である</li> <li>健康状態の維持・改善を図る指導を進めるに当たっては、主治医等から個々の児童生徒の健康状態に関する情報を得るとともに、日ごろの体調を十分に把握する必要があることから、医療機関や家庭と密接な連携を図ることが大切である</li> </ul> |  |   |

|                 |  |  |   |  |
|-----------------|--|--|---|--|
| 2<br>心理的<br>な安定 | (1) 情緒の安定に関する<br>こと                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しい場合、自ら自分をたたいてしまうことや、他者に対して不適切な関わり方をしてしまうことがある</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を落ち着かせることができる場所に移動して、慣れた別の活動に取り組むなどの経験を積み重ねていながら、その興奮を静める方法を知ることや、様々な感情を表した絵カードやメモなどを用いて自分の気持ちを伝えるなどの手段を身に付けられるように指導することが大切である</li> </ul>             | ✓  |
|                 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活環境などの様々な要因から、心理的に緊張したり不安になったりする状態が継続し、集団に参加することが難しくなることがある</li> <li>・環境的な要因が心理的面に大きく関与していることがある</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠、生活のリズム、体調、天気、家庭生活、人間関係など、その要因を明らかにし、情緒の安定を図る指導をするとともに、必要に応じて環境の改善を図ることが大切である</li> </ul>  |  |
|                 |  | <p>チックの症状のある児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安や緊張が高まった状態になると、身体が動いてしまったり、言葉を発してしまったりすることがある</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安や緊張が高まる原因を知り、自ら不安や緊張を和らげるようにするなどの指導をすることが大切である</li> </ul>   |  |
|                 | (2) 状況の理解と変化への<br>対応に関すること                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の日課と異なる学校行事や、急な予定の変更などに対応することができず、混乱したり、不安になったりして、どのように行動したらよいか分からなくなることがある</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定されているスケジュールや予想される事態や状況等を伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりするなど、状況を理解して適切に対応したり、行動の仕方を身に付けたりするための指導をすることが大切である</li> </ul>   |  |
|                 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の状況に意識を向けることや経験したことを他の場面にも結び付けて対応することが苦手なため、人前で年齢相応に行動する力が育ちにくいことがある</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動の仕方を短い文章にして読むようにしたり、適切な例を示したりしながら、場に応じた行動の仕方を身に付けさせていくことが大切である</li> </ul>   |  |
|                 |  | <p>選択性かん黙の児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家庭などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人は話したくても話せない状態であることを理解し、本人が安心して参加できる集団構成や活動内容等の工夫をしたり、対話的な学習を進める際には、選択肢の提示や筆談など様々な学習方法を認めたりするなどして、情緒の安定を図りながら、他者とのやりとりができる場面を増やしていくことが大切である</li> </ul> |  |
|                 |  | <p>本人が納得して次の活動に移ることができるような指導については、<br/>「3人間関係の形成」<br/>「4環境の把握」等</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場面を切り換えることが難しいことがある</li> <li>・こだわりの要因としては、自分にとって快適な刺激を得ていたリ、不安な気持ちを和らげるために自分を落ち着かせようとしていたりしていることがある</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の動作や行動等を行ってもよい時間帯や回数をあらかじめ決めたり、自分で予定表を書いて確かめたりして、見通しをもって落ち着いて取り組めるように指導することが有効である</li> </ul> |
|                 | (3) 障害による学習上又は<br>生活上の困難を改善・<br>克服する意欲に関する<br>こと | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害に起因して心理的な安定を図ることが困難な状態にある場合がある</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ障害のある者同士の自然なかかわりを大切にしたり、社会で活躍している先輩の生き方や考え方を参考にできるようにしたりして、心理的な安定を図り、障害による困難な状態を改善・克服して積極的に行動しようとする態度を育てることが大切である</li> </ul>                          |  |

|              |  |   |  |                   |
|--------------|--|---|--|-------------------|
| 3<br>人間関係の形成 | (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのかかわりをもとうとするが、その方法が十分に身に付いていない場合がある</li> <li>・嬉しい気持ちや悲しい気持ちを伝えにくい場合がある</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な教師とのかかわりから、少しずつ、教師との安定した関係を形成することが大切である</li> <li>・やりとりの方法を大きく変えずに繰り返し指導するなどして、そのやりとりの方法が定着するようにし、相互にかかわり合う素地を作ることが重要である</li> <li>・やりとりの方法を少しずつ増やしていくが、その際、言葉だけでなく、具体物や視覚的な情報も用いて分かりやすくすることが大切である</li> <li>・本人の好きな活動などにおいて、感情を表した絵やシンボルマーク等を用いながら、自分や、他者の気持ちを視覚的に理解したり、他者と気持ちの共有を図ったりするような指導を通して、信頼関係を築くことができるようにすることが大切である</li> </ul> | <p>✓</p> <p>✓</p> |
|              | (2) 他者の意図や感情の理解に関すること  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが困難な場合がある</li> <li>・言葉を字義通りに受け止めてしまう場合があるため、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違えることがある</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活上の様々な場面を想定し、そこでの相手の言葉や表情などから、相手の立場や相手が考えていることなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付けることが大切である</li> </ul>  | <p>✓</p>          |
|              | (3) 自己の理解と行動の調整に関すること  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験が少ないことや課題に取り組んでもできなかった経験などから、自己に肯定的な感情をもつことができない状態に陥っている場合がある</li> <li>・活動が消極的になったり、活動から逃避したりすることがある</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期から成就感を味わうことができるような活動を設定するとともに、自己を肯定的に捉えられるように指導することが重要である</li> </ul>   | <p>✓</p>          |
|              | 自己を理解し、状況に応じて行動できるようになるためには、<br>「3人間関係の形成<br>(2) 他者の意図や感情の理解に関すること」<br>「4環境の把握」等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所に関心が向きにくいなど、自己の理解が困難な場合がある</li> <li>・「他者が自分をどう見ているか」、「どうしてそのような見方をするのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でないことから、友達の行動に対して適切に応じることができないことがある</li> <li>・特定の光や音などにより混乱し、行動の調整が難しくなることがある</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な活動を通して自分の得意なことや不得意なことの理解を促したり、他者の意図や感情を考え、それへの対応方法を身に付けたりする指導を関連付けて行うことが必要である</li> <li>・光や音などの刺激の量を調整したり、避けたりするなど、感覚や認知の特性への対応に関する内容も関連付けて具体的な指導内容を設定することが求められる</li> </ul>   | <p>✓</p>          |
|              | (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚の過敏さのため特定の音に、また、触覚の過敏さのため身体接触や衣服の材質に強く不快感を抱くことがある</li> <li>・刺激が強すぎたり、突然であったりすると、感情が急激に変化したり、思考が混乱したりすることがある</li> <li>・ある児童生徒にとって不快な刺激も、別の児童生徒にとっては快い刺激である場合がある</li> <li>・不足する感覚を補うため、身体を前後に動かしたり、身体の一部をたたき続けたりして、自己刺激を過剰に得ようとすることがある</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・不快である音や感触などを自ら避けたり、児童生徒の状態に応じて、音が発生する理由や身体接触の意図を知らせるなどして、それらに少しずつ慣れていったりするように指導することが大切である</li> <li>・個々の児童生徒にとって、快い刺激は何か、不快な刺激は何かをきめ細かく観察して把握しておく必要がある</li> <li>・例えば、身体を前後に動かしている場合には、ブランコ遊びを用意するなど、自己刺激のための活動と同じような感覚が得られる他の適切な活動に置き換えるなどして、児童生徒の興味がより外に向かい、広がるような指導をすることが大切である</li> </ul>   | <p>✓</p>          |
| 4<br>環境の把握   |  |   |  |                   |

|  |                             |   |   |   |   |
|--|-----------------------------|---|---|---|---|
| 4<br>環境の把握                             | (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること    |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚に過敏が見られ、特定の音を嫌がることもある</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で苦手な音などを知り、音源を遠ざけたり、イヤーマフやノイズキャンセルヘッドホン等の音量を調節する器具を利用したりするなどして、自分で対処できる方法を身に付けるように指導することが必要である</li> <li>・特定の音が発生する理由や仕組みなどを理解し、徐々に受け入れられるように指導していくことが大切である</li> </ul>   | ✓ |
|  |                             |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚過敏のため、必要な音を聞き分けようとしても、周囲の音が重なり聞き分けづらい場合がある</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音量を調節する器具の利用等により、聞き取りやすさが向上し、物事に集中しやすくなることを学べるようにし、必要に応じて使い分けられるようにすることが大切である</li> <li>・状況に応じてこれらの器具を使用することを周囲に伝えることができるように指導することが大切である</li> <li>・個々の児童生徒の障害の状態や発達の段階、興味・関心等に応じて、将来の社会生活等に結び付くように補助及び代行手段の適切な活用を努めることが大切である</li> </ul>                        |   |
|  | (5) 認知や行動の手掛りとなる概念の形成に関すること |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「もう少し」、「そのくらい」、「大丈夫」など、意味内容に幅のある抽象的な表現を理解することが困難な場合があるため、指示の内容を具体的に理解することが難しいことがある</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示の内容や作業手順、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材・教具等の工夫を行うとともに、手順表などを活用しながら、順序や時間、量の概念等を形成できるようにすることが大切である</li> </ul>   | ✓ |
|  |                             |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある事柄に注意が集中する傾向があるため、結果的に活動等の全体像が把握できないことがある</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部分だけでなく、全体を把握することが可能となるように、順序に従って全体を把握する方法を練習することが大切である</li> </ul>   | ✓ |
| 5<br>身体<br>の<br>動き                     | (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること    | 「2心理的な安定」<br>「3人間関係の形成」等                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやり方にこだわりがあったり、手足を協調させてスムーズに動かしたりすることが難しい場合がある</li> <li>・他者の意図を適切に理解することが困難であったり、興味のある一つの情報のみに注意が集中してしまったりすることから、教師が示す手本を自ら模倣しようとする意識がもてないため、作業に必要な巧緻性などが十分育っていないことがある</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの作業についていろいろな方法を体験させるなどして、作業のやり方へのこだわりを和らげたり、児童生徒と教師との良好な人間関係を形成し、児童生徒が主体的に指導者の示す手本を模倣しようとする気持ちを育てたりすることが大切である</li> </ul>  |   |
| 6<br>コ<br>ミュ<br>ニ<br>ケー<br>シ<br>ョ<br>ン | (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある物を手にしたいという欲求が勝り、所有者のことを確認しないまま、他者の物を使ったり、他者が使っている物を無理に手に入れようとしたりすることがある</li> <li>・他の人の手を取って、その人に自分が欲しい物を取ってもらおうとすることがある</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の者はそれらの行動が意思の表出や要求を伝達しようとした行為であることを理解するとともに、児童生徒がより望ましい方法で意思や要求を伝えることができるよう指導することが大切である</li> </ul>  |   |
|  |                             | コミュニケーションの基礎的能力に関する指導においては、<br>「3人間関係の形成」<br>「5身体動き」等 | 知的障害と自閉症を併せ有する児童生徒の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人への関心が乏しく結果として他の人からの働きかけを受け入れることが難しい場合がある</li> <li>・興味や関心をもっている事柄に極端に注意が集中していたり、相手の意図や感情をとらえることが難しかったりする場合がある</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の児童生徒の興味や関心のある活動の中で、教師の言葉掛けに対して視線を合わせたり、児童生徒が楽しんでいる場面に教師が「楽しいね」、「うれしいね」などの言葉をかけたりするなどして、人とやりとりをすることや通じ合う楽しさを感じさせながら、他者との相互的なやりとりの基礎的能力を高める指導をすることが大切である</li> <li>・コミュニケーション手段として身振り、絵カードやメモ、機器などを活用する際には、個々の児童生徒の実態を踏まえ、無理なく活用できるように工夫することが必要である</li> </ul> |   |

|  |                                 |  |  |  |   |
|--|---------------------------------|--|--|--|---|
| 6<br>コ<br>ミ<br>ュ<br>ニ<br>ケ<br>ー<br>シ<br>ョ<br>ン | (2) 言語の受容と表出に関する<br>こと          | 相手の意図を受け止め、自分の考えを伝えることができるようにするためには、話し言葉や絵、記号、文字などを活用できるように指導するとともに、<br>「2心理的な安定」<br>「3人間関係の形成」<br>「6コミュニケーション」等 | ・他者の意図を理解したり、自分の考えを相手に正しく伝えたりすることが難しいことがある   | ・話す人の方向を見たり、話を聞く態度を形成したりするなど、他の人との関わりやコミュニケーションの基礎に関する指導を行うことが大切である<br>・正確に他者とやりとりするために、絵や写真などの視覚的な手掛かりを活用しながら相手の話を聞くことや、メモ帳やタブレット型端末等を活用して自分の話したいことを相手に伝えることなど、本人の障害の状態等に合わせて様々なコミュニケーション手段を用いることが有効である<br>・相手の言葉や表情などから、相手の意図を推測するような学習を通して、周囲の状況や他者の感情に配慮した伝え方ができるようにすることが大切である | ✓   |
|  | (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する<br>こと |  | ・言葉でのコミュニケーションが困難な場合がある  | ・自分の意思を適切に表し、相手に基本的な要求を伝えられるように身振りなどを身に付けたり、話し言葉を補うために絵カードやメモ、タブレット端末等の機器等を活用できるようにしたりすることが大切である   | ✓   |
|  |                                 |  | ・順を追って説明することが困難であるため、聞き手に分かりやすい表現をすることができないことがある   | ・簡単な絵に吹き出しや簡単なセリフを書き加えたり、コミュニケーションボード上から、伝えたい項目を選択したりするなどの手段を練習しておき、必要に応じてそれらの方法の中から適切なものを選んで使用することができるようにすることが大切である   |   |
|  | (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する<br>こと   | 適切に報告したり相談したりする力を育てるには、<br>「2心理的な安定」<br>「3人間関係の形成」等  | ・会話の内容や周囲の状況を読みとることが難しい場合があるため、状況にそぐわない受け答えをすることがある  | ・相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなど、場面にふさわしい表現方法を身に付けることが大切である<br>・実際の生活場面で、状況に応じたコミュニケーションを学ぶことができるような指導を行うことが大切である  | ✓   |
|  |                                 |  | ・援助を求めたり依頼したりするだけでなく、必要なことを伝えたり、相談したりすることが難しいことがある<br>・思考を言葉にして目的に沿って話すことや他者の視点に立って考えることが苦手なことなどがある<br>・コミュニケーションにすれ違いが生じることが多いことから、話す意欲が低下していることがある | ・日常的に報告の場面をつくることや相手に伝えるための話し方を学習すること、ホワイトボードなどを使用して気持ちや考えを書きながら整理していくことが大切である<br>・コミュニケーションの基礎的な指導を工夫するほか、安心して自分の気持ちを言葉で表現する経験を重ね、相談することのよさが実感できるように指導していくことが大切である<br>・自分のコミュニケーションの傾向を理解していくことが重要である  | ✓   |
|  |                                 |  | 場や相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションを展開できるようにするには、<br>「2心理的な安定」<br>「3人間関係の形成」等  | 選択性かん黙の児童生徒の場合<br>・家庭などの生活の場では普通の会話ができるものの、学校の友達とは話すことができないなどの場合がある  | ・気持ちが安定し、安心できる状況作りや信頼できる人間関係作りが重要である<br>・児童生徒が興味・関心のある事柄について、共感しながら一緒に活動したり、日記や作文などを通して気持ちや意思を交換したりする機会を多くすることが大切である<br>・状況に応じて、筆談などの話し言葉以外のコミュニケーション手段を活用することが大切である<br>・児童生徒が自信をもち、自己に対して肯定的なイメージを保つことができるような指導をすることが大切である |